

2021 年 11 月 15 日

## 事業提案書要約（草の根協力支援型）

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	カンボジア王国
2. 事業名	カンボジア王立農業大学によるため池を活用した乾季農業の実証モデルの形成と地域での実証プログラムの実践
3. 事業の背景と必要性	カンボジアにおいて農業は最も重要な部門であり、特に乾季農業の再興が強く求められている。カンボジア王立農業大学(RUA)では、これまでため池を活用した乾季農業技術について研究開発が行われ、学内で実証が進んでいるものの、その有効性・実効性を地域で検証することが困難であった。このため、これまで RUA において蓄積されたため池の整備やその水を利用した乾季農業に関する知見を基に、ため池を活用した乾季農業の実証モデルを形成し、地域で実証することにより、その有効性を確認し、乾季農業の再興に結びつける必要がある。 一方、地域において高校は、公的な場所で、父兄を含め多くの人がかかわりを持っており、地域の拠点として機能できる可能性を有している。また、多くの場合、校内に圃場が整備されており、雨季の稲作を中心とした栽培活動が職能訓練の一環として実施されている。そこで、プノンペン近傍の 3 つの州内の 3 高校を拠点として、実証モデルに基づく作物栽培を行い、ため池を活用した乾季農業の有効性を実証するとともに、周辺住民に展示する。
4. プロジェクト目標	王立農業大学においてため池を活用した乾季農業の実証モデルが形成され、対象の3高校においてため池を活用した乾季農業が実践・展示される。
5. 対象地域	カンボジア王立農業大学およびプノンペン周辺の 3 高校
6. 対象地域を管轄する大使館及び領事館	在カンボジア日本国大使館
7. 本事業の対象となる人々	王立農業大学の教員・学生および対象 3 高校の教員・生徒
8. 事業活動	<活動> 1. RUA におけるため池を活用した乾季農業の実証モデルを策定し、地域における実証モデルの形成を行う。 2. 対象とする3高校において乾季農業の展開に必要なため池、圃場・施設を整備・維持管理し、ため池を活用した乾季の農業を実践する。
9. 実施期間	(西暦) 2021 年 10 月～2023 年 10 月 ( 2 年)
10. 事業費概算額	10,650 千円
11. 事業の実施体制	◆ RUA に設置する事業推進委員会・事業実施チーム、それぞれの高校に設置する圃場管理委員会が連携を図りながら、事業の実施をおこなうとともに、近畿大学に事業管理委員会を設け、RUA ならびに対象高校に対し、必要な支援を提供する。
II. 提案団体の概要	
1. 団体名	学校法人近畿大学
2. 活動内容	大学の 14 学部を中心とした研究・教育・産官学連携活動と社会貢献活動

(注：A4 用紙 1 枚以内にまとめてください)